

8－1 技術・家庭（技術分野）

（１）第１学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

１年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・ 授業や作業は安全に取り組むことができる。
- ・ 小学校での経験や生活経験の違いから、技術的な事柄や作業に関する知識・技能、興味や関心について個人差がある。

イ 学力の状況

１年生の技術の学力について、以下のような傾向が見られる。

- ・ 実技を含め、学習には積極的であり、取り組みは前向きである。
- ・ 学習意欲の差となる原因の一つとして、これまでの生活経験の違いがある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 実習を通して、「できた」という実感を増やし、意欲的に取り組めるようにする。
- ・ 授業評価アンケートの「この教科に対して興味・関心がありますか。」という設問に対する回答について、「そう思う」は４３．７％、「どちらかというと思う」は４２．１％であった。生活に関わる基礎的な知識を確実に身に付け、授業で習得した事柄を日常生活でも活用できるようにする。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業評価アンケートの「先生の説明は分かりやすいですか。」という設問に対する回答について、「そう思う」は６９％、「どちらかというと思う」は２７．８％であった。動画資料の提示や学習者用端末の活用を通して、生徒自らが主体的に活動できる授業になるよう工夫をする。
- ・ 興味・関心がもてるよう、発問や教材教具、授業計画を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 班の活動を取り入れる。
- ・ GoogleClassroomを活用した意見交換やレポート作成を取り入れる。
- ・ 学習カードの記入例を提示したり、書く時のポイントを明示したりする。
- ・ 安全指導時に場面を言語化、具体化して分かりやすく伝えることを意識させる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 技術科室の環境を整備し、安全に集中して作業できるようにする。
- ・ 授業開始時に本授業の目標を提示し、流れと注意点を提示する。
- ・ 学習者用端末を中心に、視聴覚資料を提示して、分かりやすい説明を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 授業で扱った動画等をclassroomで共有し、家庭学習に使用できるようにする。
- ・ 技術で習得した事柄を日常生活で活用できるように指導する。
- ・ 定期考査前や長期休業中の家庭学習のポイントを具体的に提示する。

エ その他（ＩＣＴ機器の活用等を含む）

- ・ プロジェクター、ディスプレイ等を用いて、分かりやすい説明を行う。
- ・ より円滑な授業展開のため、書画カメラを活用する。
- ・ 作業進度や難易度に合った技能の習得ができるよう、個別の課題設定をする。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・ 授業や作業への取り組みが意欲的である生徒が多く、他教科で学習したことや経験を踏まえて、学習内容を深めることができる。
授業や作業への取り組みは意欲的で、学んだことを踏まえて取り掛かることができる。
- ・ 生活経験の違いなどから、作業に関する技能や興味・関心に個人差がある。

イ 学力の状況

2年生の技術の学力について、以下のような傾向が見られる。

- ・ 実技を含めて学習には積極的であり、取り組みは前向きで、自分なりの工夫を取り入れ他者と協力して作業を進めることができる。
- ・ 学習したことを踏まえて、意見交換をしたり、考えをまとめたりすることができる。
- ・ 学習意欲の差となる原因の一つとして、これまでの経験の違いが挙げられる。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 実習を通して、技術科への興味関心を高め、意欲的に取り組めるようにする。
- ・ 授業評価アンケートの「この教科に対して興味・関心がありますか。」という設問に対する回答について、「そう思う」は48.3%、「どちらかというと思う」は31%であった。生物育成の技術を自分事として捉えられるような実技課題を行っていく。
- ・ エネルギー変換の技術について習得した事柄を日常生活でも生かせるようにする。
- ・ 生活に必要な基礎的な知識を身に付け、技術やモノの見方に生かせるようにする。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 基礎的な技能の習得について細やかな指導と個に応じた工夫をする。
- ・ 実技では、手本や動画資料の提示をし、目標を明示する。教材や授業計画を工夫する。
- ・ 授業評価アンケートの「先生の説明は分かりやすいですか。」という設問に対する回答について、「そう思う」は73.3%、「どちらかというと思う」は23.3%であった。目標の明確化と作業の見通しがもてるよう、説明や資料の提示を行う。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 班の活動を取り入れる。男女混合班で定期的にメンバーを変えることで多様な視点を取り入れることができるようにする。
- ・ GoogleClassroomを活用した意見交換やレポート作成を取り入れる。
- ・ 学習カードの振り返りを活用する。
- ・ 安全指導時に場面を言語化することを繰り返す。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に本授業の目標を提示し、流れと注意点を提示する。
- ・ ICT機器を活用することにより、分かりやすい説明を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 授業で扱った動画等をclassroomで共有し、家庭学習に使用できるようにする。
- ・ 定期考査前や長期休業中の家庭学習のポイントを具体的に提示する。

エ その他

- ・ 学習者用端末を適切に扱えるよう、情報モラルについて継続して指導する。
- ・ 作業進度や難易度に合った技能の習得ができるよう、個別の課題設定をする。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・ 授業や作業への取り組みが意欲的である生徒が多く、他教科で学習したことや経験を踏まえて、学習内容を深めることができる。
- ・ 生活経験の違いから、技術的な事柄や作業に関する技能について身に付いている力や興味・関心に個人差がある。

イ 学力の状況

3年生の技術の学力について、以下のような傾向が見られる。

- ・ 実技を含めて学習には積極的であり、取り組みは前向きである。新しいアイデアを生み出すことに苦手意識を持つ生徒が多い。
- ・ 教科への興味関心に個人差がある。定期考査への取り組みも個人差がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 実習を通し、技術科に対する興味関心を高め、意欲的に取り組めるようにする。
- ・ 実技で習得した事柄を日常生活の中で生かし、情報収集や情報の取捨選択の場面でモデルをもって行動できるようにする。
- ・ 授業評価アンケートの「この教科に対して興味・関心がありますか。」という設問に対する回答について、「そう思う」は40%、「どちらかというと思う」は40%であった。生活に必要な基礎的な知識を身に付け、技術やモノの見方へ生かせるようにする。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 授業評価アンケートの「先生の説明は分かりやすいですか。」という設問に対する回答について、「そう思う」は73.7%、「どちらかというと思う」は24.8%であった。分かりやすい説明の工夫や実際の社会の中の技術とリンクさせて学習できるようにする。
- ・ 実技では、ロイロノート等で資料を共有し各自で作業を進められるようにする。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 班の活動を取り入れる。男女混合班で定期的にメンバーを変えることで多様な視点を取り入れることができるようにする。
- ・ 安全指導時に場面を言語化することを繰り返す。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業開始時に本授業の目標を提示し、流れと注意点を提示する。
- ・ ICT機器を活用することにより、分かりやすい説明を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 学習プリントを活用して課題を提示し、知識の定着を図る。
- ・ 技術で習得した事柄を日常生活で活用できるように指導する。
- ・ 授業で扱った動画資料などをGoogleClassroomで共有して復習に使えるようにする。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ プロジェクター、ディスプレイを用いて、資料を明示して、分かりやすい説明を行う。
- ・ 基礎技能の習得において、自分自身の作業進捗や難易度に合った技能の習得ができるよう、個別の課題設定を行う。
- ・ 実際の社会の中の技術と学習内容のリンクができるよう、資料の提示などをしていく。